

1 目指す学校像

「HARD SPIRIT 貫徹精神」の下、幅広い知識と教養を身につけ、逞しく豊かな心身を培い、郷土や我が国さらには国際社会の発展に貢献する志を涵養し、国際人として大局的な視点に立って行動できる人間を育てる学校を目指す。

2 本年度の教育目標

- ①学びの習慣の確立と学力の向上
生きる力につながる確かな学力の定着を目指し、学びのプロセスとしての学習習慣の確立と共に学びの結果としての学力の向上を図る。
- ②特別活動と部活動の充実
逞しく豊かな心身と他者との協働を喜びとできる「睦み」の心の育成を目指し、社会性、協調性、主体性を育てる特別活動と部活動の充実を図る。
- ③キャリア教育と地域貢献の推進
社会の中で自己の在り方生き方を見つめ、社会に貢献する志の涵養を目指し、キャリア教育や道徳教育を推進すると共に、生徒、保護者、地域社会に開かれ、地域社会に貢献する教育活動を推進する。
- ④英語運用力の向上と国際交流活動の推進
上記3点の育成を基盤としたその上に、国際人としての知性・感性を備え、大局的な視点に立ち、日本の内外の問題に対する正しい理解に基づいて行動できる人間、すなわちグローバルリーダーの育成を目指し、英語運用力の向上を図ると共に国際交流活動を推進する。

3 評価

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	自己評価	学校関係者評価	今後の課題																																																																																																																			
1 学びの習慣の確立と学力の向上		① 家庭学習習慣づくり 【1年】 90時間/月 【2年】 100時間/月 週明けテスト 【1年】 合格率100%	・「進路実現ノート」を通して、個々の学習を把握する。 ・学年通信の定期発行と内容を充実させる。 ・進路面談、進路指導集会等を効果的に実施する。	平均家庭学習時間 【1年】 中間考査前後138.3/日 【2年】 中間考査前後149.2分/日 100時間/月以上20.5% 60時間/月以上71.1% 週明けテスト 【1年】 合格率 英語82% 数学96% 国語76%	家庭学習時間 1日当たりの平均 (分) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th rowspan="2">生徒数</th> <th colspan="2">1年次</th> <th colspan="2">2年次</th> <th colspan="2">3年次</th> </tr> <tr> <th>6月</th> <th>2月</th> <th>6月</th> <th>10月</th> <th>6月</th> <th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>281</td> <td>138</td> <td>70</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>274</td> <td>115</td> <td>89</td> <td>149</td> <td>161</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>275</td> <td>100</td> <td>76</td> <td>85</td> <td>92</td> <td>170</td> <td>233</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1年次2月は1年生のみ対象。2・3年生の1年次には10月実施。 週明けテストの合格率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1回</th> <th>第2回</th> <th>第3回</th> <th>第4回</th> <th>第5回</th> <th>第6回</th> <th>第7回</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>86.5</td> <td>96.1</td> <td>92.2</td> <td>96.4</td> <td>94.3</td> <td>92.1</td> <td>93.8</td> <td>93.1</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>99.3</td> <td>98.6</td> <td>95.3</td> <td>96.4</td> <td>96.3</td> <td>70.2</td> <td></td> <td>92.7</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>79.2</td> <td>83.9</td> <td>70.2</td> <td>35.4</td> <td>54.9</td> <td>54.2</td> <td>29.1</td> <td>58.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>1年生で90分以上の家庭学習をしている生徒は23.7%である。40.9%の生徒が60～90分であり、課題のみに終始している状況が推察される。2年生で月に100時間以上の家庭学習をしている生徒の割合は27.8%となっており、1年生と同様の傾向にあると考えられる。</p>	学年	生徒数	1年次		2年次		3年次		6月	2月	6月	10月	6月	10月	1年	281	138	70					2年	274	115	89	149	161			3年	275	100	76	85	92	170	233		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	平均	国語	86.5	96.1	92.2	96.4	94.3	92.1	93.8	93.1	数学	99.3	98.6	95.3	96.4	96.3	70.2		92.7	英語	79.2	83.9	70.2	35.4	54.9	54.2	29.1	58.1	C	・家庭学習調査の実施時期と調査内容を再考する必要がある。(学習の質を測る内容とする) ・各教科における週明けテストの意義を再確認する必要がある。																																									
	学年	生徒数	1年次		2年次			3年次																																																																																																																		
			6月	2月	6月	10月	6月	10月																																																																																																																		
1年	281	138	70																																																																																																																							
2年	274	115	89	149	161																																																																																																																					
3年	275	100	76	85	92	170	233																																																																																																																			
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	平均																																																																																																																		
国語	86.5	96.1	92.2	96.4	94.3	92.1	93.8	93.1																																																																																																																		
数学	99.3	98.6	95.3	96.4	96.3	70.2		92.7																																																																																																																		
英語	79.2	83.9	70.2	35.4	54.9	54.2	29.1	58.1																																																																																																																		
		② 読書習慣づくり 図書貸出数 【1・2年】 1000冊/年	・図書オリエンテーションを実施する。 ・受験指導の一環として読書を推奨する。	図書貸出数(7月末) 【1年】 586冊 【2年】 217冊	図書貸出冊数と読書感想文コンクール入賞者 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>貸出冊数</th> <th>高知県読書感想文コンクール</th> <th>大原富枝賞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>996</td> <td>優秀賞1 入選7</td> <td>随筆佳作1</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>635</td> <td>入選11</td> <td>小説最優秀1</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>687</td> <td>入選9</td> <td>小説優秀2 佳作1</td> </tr> </tbody> </table> <p>*貸出冊数は2月末現在</p> <p>図書の貸出で2年生の落ち込みが見られる。読書感想文コンクールは例年通りの成果が得られた。また、大原富枝賞では特筆すべき成果を得た。</p>	学年	貸出冊数	高知県読書感想文コンクール	大原富枝賞	1年	996	優秀賞1 入選7	随筆佳作1	2年	635	入選11	小説最優秀1	3年	687	入選9	小説優秀2 佳作1	B C	・設定されている目標値が高すぎるのではないかと。 ・家庭学習の時間量と学力の向上との相関性は認められるのか。また、読書習慣の確立と読解力の向上を図る指標として図書貸出冊数を用いているがその根拠は明確になっているのか。 ・グローバルリーダーを育成するのであれば、新聞を読ませることも必要なのではないか。 ・国公立大学合格者100名を目標値とした根拠理由は何か。 ・学力や家庭学習の評価に行き詰っているようにも感じられる。教員の授業を中心とした相互評価を活用してはどうか。																																																																																																			
学年	貸出冊数	高知県読書感想文コンクール	大原富枝賞																																																																																																																							
1年	996	優秀賞1 入選7	随筆佳作1																																																																																																																							
2年	635	入選11	小説最優秀1																																																																																																																							
3年	687	入選9	小説優秀2 佳作1																																																																																																																							
		③ 学力の向上 【1年】 国・数・英3教科総合の平均点偏差値50以上 各教科の平均点偏差値53以上 【2年】 3・5教科総合の平均点偏差値50以上 各教科の平均点偏差値53以上 【3年】 国公立大学合格者100名以上	・予習・復習課題を精選し、確実な提出を習慣づける。 ・個別試験対策時期の適正化を図る。 ・模試等の結果を分析協議し、事後の指導に生かす。	学力の向上 【1年】7月記述模試 3教科総合平均点偏差値48.0 国語50.8 数学46.8 英語47.8 【2年】7月記述模試 3教科総合平均点偏差値50.5 国語53.3 数学49.4 英語50.4 【3年】6月マーク模試 5教科7科目平均点偏差値 文系44.6 理系43.9 7月記述模試結果 3教科平均点偏差値 文系43.7 理系43.8	全国模擬試験結果 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th rowspan="2">教科</th> <th colspan="3">1年次</th> <th colspan="3">2年次</th> <th colspan="2">3年次</th> </tr> <tr> <th>7月</th> <th>11月</th> <th>1月</th> <th>7月</th> <th>11月</th> <th>1月</th> <th>7月</th> <th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">1年</td> <td>3総合</td> <td>48.0</td> <td>48.8</td> <td>49.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>50.8</td> <td>51.0</td> <td>51.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>46.8</td> <td>48.6</td> <td>49.8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2年</td> <td>3総合</td> <td>49.3</td> <td>50.0</td> <td>51.4</td> <td>50.7</td> <td>48.8</td> <td>48.7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>49.6</td> <td>52.6</td> <td>52.0</td> <td>53.3</td> <td>51.5</td> <td>51.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>49.9</td> <td>49.7</td> <td>51.6</td> <td>49.4</td> <td>47.3</td> <td>47.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">3年</td> <td>3総合</td> <td>48.7</td> <td>48.7</td> <td>50.2</td> <td>50.4</td> <td>49.9</td> <td>50.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>49.4</td> <td>49.2</td> <td>50.8</td> <td>50.4</td> <td>50.7</td> <td>51.0</td> <td>46.5</td> <td>44.7</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>48.1</td> <td>51.7</td> <td>52.3</td> <td>50.1</td> <td>50.5</td> <td>47.5</td> <td>44.8</td> <td>45.1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>英語</td> <td>46.6</td> <td>46.1</td> <td>46.8</td> <td>47.1</td> <td>47.4</td> <td>47.0</td> <td>45.4</td> <td>44.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>3年 国公立大学合格者数 71名</p> <p>平均点偏差値50を超える教科が増加傾向にある。設定目標である平均点偏差値53.0以上となった科目も見られはじめた。1年生は次年度も右肩上がりになるよう、2年生は巻き返しを期待したい。</p>	学年	教科	1年次			2年次			3年次		7月	11月	1月	7月	11月	1月	7月	10月	1年	3総合	48.0	48.8	49.6						国語	50.8	51.0	51.7						数学	46.8	48.6	49.8						2年	3総合	49.3	50.0	51.4	50.7	48.8	48.7			国語	49.6	52.6	52.0	53.3	51.5	51.2			数学	49.9	49.7	51.6	49.4	47.3	47.4			3年	3総合	48.7	48.7	50.2	50.4	49.9	50.2			国語	49.4	49.2	50.8	50.4	50.7	51.0	46.5	44.7	数学	48.1	51.7	52.3	50.1	50.5	47.5	44.8	45.1					英語	46.6	46.1	46.8	47.1	47.4	47.0	45.4	44.1	C	・センター試験における国語・数学・英語3教科の全国平均と校内平均との差が拡大している。指導法の改善とともに教科での協働的対応を講じる必要がある。
学年	教科	1年次			2年次			3年次																																																																																																																		
		7月	11月	1月	7月	11月	1月	7月	10月																																																																																																																	
1年	3総合	48.0	48.8	49.6																																																																																																																						
	国語	50.8	51.0	51.7																																																																																																																						
	数学	46.8	48.6	49.8																																																																																																																						
2年	3総合	49.3	50.0	51.4	50.7	48.8	48.7																																																																																																																			
	国語	49.6	52.6	52.0	53.3	51.5	51.2																																																																																																																			
	数学	49.9	49.7	51.6	49.4	47.3	47.4																																																																																																																			
3年	3総合	48.7	48.7	50.2	50.4	49.9	50.2																																																																																																																			
	国語	49.4	49.2	50.8	50.4	50.7	51.0	46.5	44.7																																																																																																																	
	数学	48.1	51.7	52.3	50.1	50.5	47.5	44.8	45.1																																																																																																																	
				英語	46.6	46.1	46.8	47.1	47.4	47.0	45.4	44.1																																																																																																														

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	自己評価	学校関係者評価	今後の課題																																																																
2	特別活動と部活動の充実 ・2年生の体力運動能力テスト結果の向上 ・中学校への情報発信チャンネルの充実 ・学校評価アンケートに行事内容の改善に対する要望が記述されている。	① 心身の鍛錬と生活習慣の確立 【1～3年】 皆勤	・「学年皆勤賞」を設定し啓発する。 ・学年レクリエーションを実施し、ホーム・学年の一体感を図る。	皆勤(7月末) 【1年】 213名(75.5%) 【2年】 161名(58.6%) 【3年】 159名(57.9%)	皆勤 <table border="1"> <tr><th>学年</th><th>生徒数</th><th>皆勤者数</th><th>皆勤率</th></tr> <tr><td>1年</td><td>279</td><td>119</td><td>42.7%</td></tr> <tr><td>2年</td><td>274</td><td>107</td><td>39.1%</td></tr> <tr><td>3年</td><td>275</td><td>107</td><td>38.9%</td></tr> </table> <p>どの学年も皆勤率が3割を超えており、西高生の資質の高さを物語っている。良き伝統、良き雰囲気は今後も継続したい。</p>	学年	生徒数	皆勤者数	皆勤率	1年	279	119	42.7%	2年	274	107	39.1%	3年	275	107	38.9%	C	・評価基準の見直しを図る必要がある。																																																
		学年	生徒数	皆勤者数	皆勤率																																																																		
		1年	279	119	42.7%																																																																		
		2年	274	107	39.1%																																																																		
		3年	275	107	38.9%																																																																		
② 逞しく豊かな心身の育成 【1年】 部活動加入率90%以上 【2年】 部活動継続率80%以上 【3年】 部活動成績上位入賞	魅力ある部活動づくりを進める。	部活動加入者 【1年】 260名 【2年】 269名 全国大会出場 【1年】 団体1 個人1 【2年】 団体6 個人4 【3年】 団体6 個人3	部活動参加者 <table border="1"> <tr><th>学年</th><th>生徒数</th><th>1年次</th><th>2年次</th><th>3年次</th></tr> <tr><td>1年</td><td>281</td><td>260</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2年</td><td>274</td><td>285</td><td>269</td><td></td></tr> <tr><td>3年</td><td>275</td><td>253</td><td>256</td><td>224</td></tr> </table> <p>1年生女子の部活動参加者が例年に比して少ないが、大半の生徒が部活動に参加し、活躍している。</p>	学年	生徒数	1年次	2年次	3年次	1年	281	260			2年	274	285	269		3年	275	253	256	224	<table border="1"> <tr><th colspan="4">全国大会出場クラブ</th></tr> <tr><td>体育系</td><td>バドミントン</td><td>新体操</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>水泳</td><td>弓道</td><td>登山</td></tr> <tr><td>文化系</td><td>少林寺拳法</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>吹奏楽</td><td>美術</td><td></td></tr> </table>	全国大会出場クラブ				体育系	バドミントン	新体操			水泳	弓道	登山	文化系	少林寺拳法				吹奏楽	美術		A																										
学年	生徒数	1年次	2年次	3年次																																																																			
1年	281	260																																																																					
2年	274	285	269																																																																				
3年	275	253	256	224																																																																			
全国大会出場クラブ																																																																							
体育系	バドミントン	新体操																																																																					
	水泳	弓道	登山																																																																				
文化系	少林寺拳法																																																																						
	吹奏楽	美術																																																																					
③ 体力・運動能力の向上 【1・2年】 全国平均並にする	体育の授業を通して、基本的な生活習慣を意識させるとともに文武両道が基本であることを周知する。	持久走では全国平均を大きく超えている。一方、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、反復横飛びといった瞬発系は全国平均を下回る結果となった。 持久走での持ち味を他の分野へも波及したい。	C	A																																																																			
④ 西高生としての基盤づくり 【1年】 学校適応100%	・高校生活適応支援プログラムの実施 ・「学校生活アンケート」の実施および対応 ・保護者、関係機関と連携を取りながら対応する。	<table border="1"> <tr><th colspan="3">高校生活適応支援プログラム</th></tr> <tr><th colspan="3">1年生対象</th></tr> <tr><th>質問項目</th><th>肯定</th><th>否定</th></tr> <tr><td>①高校生活への不安が少なくなった。</td><td>82.5%</td><td>17.5%</td></tr> <tr><td>②高校生活を何とかやっていけそうな気がしてきた。</td><td>92.5%</td><td>7.5%</td></tr> <tr><td>③自分のクラスについて親しみが出てきた。</td><td>97.1%</td><td>2.9%</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th colspan="4">学校適応</th></tr> <tr><th>学年</th><th>生徒数</th><th>長欠</th><th>適応率</th></tr> <tr><td>1年</td><td>281</td><td>4</td><td>98.6%</td></tr> <tr><td>2年</td><td>274</td><td>3</td><td>98.9%</td></tr> <tr><td>3年</td><td>275</td><td>1</td><td>99.6%</td></tr> </table> <p>*長欠:連続してあるいは断続的に30日以上欠席がある</p>	高校生活適応支援プログラム			1年生対象			質問項目	肯定	否定	①高校生活への不安が少なくなった。	82.5%	17.5%	②高校生活を何とかやっていけそうな気がしてきた。	92.5%	7.5%	③自分のクラスについて親しみが出てきた。	97.1%	2.9%	学校適応				学年	生徒数	長欠	適応率	1年	281	4	98.6%	2年	274	3	98.9%	3年	275	1	99.6%	<table border="1"> <tr><th colspan="4">学校生活についてのアンケート(1年生)</th></tr> <tr><th colspan="4">5月</th></tr> <tr><th>肯定</th><th>91.0%</th><th>11月</th><th>87.0%</th></tr> <tr><td>①本校に入学して良かったか。</td><td>肯定</td><td>2.0%</td><td>3.0%</td></tr> <tr><td></td><td>否定</td><td>15.0%</td><td>18.0%</td></tr> <tr><td>②学校を辞めたいと思ったことがあるか。</td><td>肯定</td><td>84.0%</td><td>81.0%</td></tr> <tr><td></td><td>否定</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>保護者・SC・関係機関と連携を取りながら、不登校傾向にある生徒の指導に努めた。</p>	学校生活についてのアンケート(1年生)				5月				肯定	91.0%	11月	87.0%	①本校に入学して良かったか。	肯定	2.0%	3.0%		否定	15.0%	18.0%	②学校を辞めたいと思ったことがあるか。	肯定	84.0%	81.0%		否定			C	・長欠生徒に対して、具体的にどのような支援を行っているのか。その支援内容の妥当性はどうか、その辺りまで踏み込む必要があるのではないか。
高校生活適応支援プログラム																																																																							
1年生対象																																																																							
質問項目	肯定	否定																																																																					
①高校生活への不安が少なくなった。	82.5%	17.5%																																																																					
②高校生活を何とかやっていけそうな気がしてきた。	92.5%	7.5%																																																																					
③自分のクラスについて親しみが出てきた。	97.1%	2.9%																																																																					
学校適応																																																																							
学年	生徒数	長欠	適応率																																																																				
1年	281	4	98.6%																																																																				
2年	274	3	98.9%																																																																				
3年	275	1	99.6%																																																																				
学校生活についてのアンケート(1年生)																																																																							
5月																																																																							
肯定	91.0%	11月	87.0%																																																																				
①本校に入学して良かったか。	肯定	2.0%	3.0%																																																																				
	否定	15.0%	18.0%																																																																				
②学校を辞めたいと思ったことがあるか。	肯定	84.0%	81.0%																																																																				
	否定																																																																						
⑤ 学校行事への積極的な参加 【1・2年】 錬歩会参加率100% 完歩率95%	各行事において、特別活動委員が中心になりホームでの積極的な参加を促す。	錬歩会 <table border="1"> <tr><th>学年</th><th>生徒数</th><th>参加率</th><th>完歩率</th></tr> <tr><td>1年</td><td>281</td><td>96.4%</td><td>99.2%</td></tr> <tr><td>2年</td><td>274</td><td>94.5%</td><td>99.2%</td></tr> </table> <p>参加率100%は達成できなかったが、完歩率99.2%は特筆すべき成果である。</p>	学年	生徒数	参加率	完歩率	1年	281	96.4%	99.2%	2年	274	94.5%	99.2%	A																																																								
学年	生徒数	参加率	完歩率																																																																				
1年	281	96.4%	99.2%																																																																				
2年	274	94.5%	99.2%																																																																				
3	キャリア教育と地域連携の推進 ・地域と協働した防災活動の模索	① 地域と連携した防災活動の実施及び地域主催の防災活動への参加	・LHでの防災学習の実施や講演会を企画し、防災意識を高める。 ・地域と合同の避難訓練を実施する。 ・生徒会を中心に、地域社会に貢献できるリーダー研修を実施する。	地域と連携した防災避難訓練実施(8月末) 参加地域住民120名	・地域主催の防災訓練を本校で実施し、生徒会を中心に本校生徒も参加した。 実際場面で効力のある防災訓練・防災教育を継続し、生徒の自助・共助の意識を育てていくことが課題である。	B	・ゴールイメージを共有し、指導計画を策定することは大切となるが、WALKプラン以外での取組ではそうしたことができていないのだろうか。																																																																
		② 植栽活動への参加	・年間計画の策定と積極的な参加呼びかけを行う。		・昨年度に比して15.5%参加者が増加した(433名)。参加生徒の85%は参加して良かったとアンケートに答えており、その理由として「人のためになることができた」と回答している。	A																																																																	
		③ WALKプラン自己評価の向上 【1・2年】 総合4.0以上	・WALKプランのねらいを明確にし、進路選択と連動させる。 ・家庭科の授業を通して、将来を見通したライフプランを設計させる。	WALKプラン自己評価 【1年】 4.3 【2年】 4.0	【1年】 企業訪問では、過半数を超える班が新規開拓を行い、積極的に取組めた。 【2年】 プレゼンテーションのゴールイメージの共有化において課題が見られた。	A																																																																	
		④ 高大連携授業等への参加者増員	ホーム担任会を活用して連携授業の重要性を伝え、積極的に参加を呼びかける。	高大連携授業等への参加者 【1年】 3名 【2年】 36名 【3年】 53名	・3年生を中心に積極的に参加することができた。1年生の希望者も多数見られたが、定員超過から受講を断念する結果となった。クリエイティブ・シンキングのノウハウをWALKプランで活用するよう計画を立てていく必要がある。	A																																																																	
		⑤ 社会貢献意識の醸成 【1年】60%以上 【2年】70%以上 【3年】75%以上	・国語や公民科の授業を通して、思考の土台となる語彙力を強化するとともに、様々な内容の教材に触れることで多種多様な価値観があることを認識させ、視野を広げる。		<table border="1"> <tr><th colspan="4">学校評価アンケートより(12月実施)</th></tr> <tr><th colspan="4">1年</th></tr> <tr><th colspan="4">2年</th></tr> <tr><th colspan="4">3年</th></tr> </table> <p>教科の授業や総合的な学習の時間を通して社会に貢献しようとする志が芽生えていると実感している。 ホームルームや学校行事(キャリア講演会等)を通して社会に貢献しようとする志が芽生えていると実感している。</p>	学校評価アンケートより(12月実施)				1年				2年				3年				A																																																	
学校評価アンケートより(12月実施)																																																																							
1年																																																																							
2年																																																																							
3年																																																																							
							・評価基準に、生徒の適応支援の成否を測る指標を設定する必要がある。																																																																
							・植栽活動の見直しを図るとともに、新たな地域貢献活動を策定する。																																																																
							・教員間でゴールイメージを共有し、逆算的に指導計画を策定する。																																																																
							・参加者数は一定定着してきたことから、参加者の変容を見てとる評価指標を設定する。																																																																

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	自己評価	学校関係者評価	今後の課題																																																																																																																																																											
4	英語運用力の向上と国際交流活動の推進	① 英語運用力の向上1 ・英検にチャレンジする [取得目標] 【1年】 普通科準2級70%以上 英語科準2級100% 英語科2級取得20%以上 【2年】 普通科準2級100%、2級10%以上 英語科2級50%以上 【3年】 普通科2級30%以上 英語科2級100%、準1級5名	・学年通信、ホーム通信等を通して受検を促す。 ・英検合格につながる授業展開と扱う教材の精選を図る。 ・情報の周知徹底と受検奨励の強化を図る。 ・学年団と連携の充実を図る。	・英検を意識した授業内容等の実施により、受検者は増加したが、目標とする取得率には程遠い状況である。	英検合格状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">1年</th> <th colspan="2">2年</th> <th colspan="2">3年</th> <th rowspan="2">合計</th> <th rowspan="2">合格率</th> </tr> <tr> <th>普通科</th> <th>英語科</th> <th>普通科</th> <th>英語科</th> <th>普通科</th> <th>英語科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準1級</td> <td>合格者数 0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td rowspan="2">2.6%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>受験者数 0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>19</td> <td>3</td> <td>15</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>2級</td> <td>合格者数 0</td> <td>6</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>58</td> <td rowspan="2">25.9%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>受験者数 3</td> <td>16</td> <td>72</td> <td>46</td> <td>63</td> <td>24</td> <td>224</td> </tr> <tr> <td>準2級</td> <td>合格者数 67</td> <td>28</td> <td>41</td> <td>4</td> <td>46</td> <td>0</td> <td>186</td> <td rowspan="2">40.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>受験者数 248</td> <td>41</td> <td>105</td> <td>5</td> <td>66</td> <td>0</td> <td>465</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>合格者数 67</td> <td>34</td> <td>55</td> <td>17</td> <td>61</td> <td>11</td> <td>245</td> <td rowspan="2">33.7%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>受験者数 251</td> <td>58</td> <td>178</td> <td>70</td> <td>132</td> <td>39</td> <td>728</td> </tr> <tr> <td colspan="9">合格率 26.7% 58.6% 30.9% 24.3% 46.2% 28.2%</td> </tr> </tbody> </table> 英検取得状況 *上段は人数 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">1年</th> <th colspan="2">2年</th> <th colspan="2">3年</th> </tr> <tr> <th>普通科</th> <th>英語科</th> <th>普通科</th> <th>英語科</th> <th>普通科</th> <th>英語科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準1級</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>取得率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.9%</td> </tr> <tr> <td>2級</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>取得率</td> <td></td> <td>17.5%</td> <td>5.9%</td> <td>55.3%</td> <td>8.8%</td> <td>60.0%</td> </tr> <tr> <td>準2級</td> <td>68</td> <td>36</td> <td>93</td> <td>35</td> <td>91</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>取得率</td> <td>28.6%</td> <td>90.0%</td> <td>39.4%</td> <td>92.1%</td> <td>37.9%</td> <td>88.6%</td> </tr> <tr> <td>生徒数</td> <td>238</td> <td>40</td> <td>236</td> <td>38</td> <td>240</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> 結果は決して芳しくはないが、「受検をするもの」という意識は形成できた。2年生英語科で2級取得率が50%を超えており、普通科における合格者数も今後期待できるものである。		1年		2年		3年		合計	合格率	普通科	英語科	普通科	英語科	普通科	英語科	準1級	合格者数 0	0	0	0	0	1	1	2.6%		受験者数 0	1	1	19	3	15	39	2級	合格者数 0	6	14	13	15	10	58	25.9%		受験者数 3	16	72	46	63	24	224	準2級	合格者数 67	28	41	4	46	0	186	40.0%		受験者数 248	41	105	5	66	0	465	合計	合格者数 67	34	55	17	61	11	245	33.7%		受験者数 251	58	178	70	132	39	728	合格率 26.7% 58.6% 30.9% 24.3% 46.2% 28.2%										1年		2年		3年		普通科	英語科	普通科	英語科	普通科	英語科	準1級	0	0	0	0	0	1	取得率						2.9%	2級	0	7	14	21	21	21	取得率		17.5%	5.9%	55.3%	8.8%	60.0%	準2級	68	36	93	35	91	31	取得率	28.6%	90.0%	39.4%	92.1%	37.9%	88.6%	生徒数	238	40	236	38	240	35	C	・具体的にどこをどのように反省し、そこからどのような対策を立てるのかを明らかにする必要がある。	・一次試験の合格率を50%以上になるよう指導改善を図るとともに、啓発を行う。
			1年		2年		3年		合計	合格率																																																																																																																																																								
			普通科	英語科	普通科	英語科	普通科	英語科																																																																																																																																																										
準1級	合格者数 0	0	0	0	0	1	1	2.6%																																																																																																																																																										
	受験者数 0	1	1	19	3	15	39																																																																																																																																																											
2級	合格者数 0	6	14	13	15	10	58	25.9%																																																																																																																																																										
	受験者数 3	16	72	46	63	24	224																																																																																																																																																											
準2級	合格者数 67	28	41	4	46	0	186	40.0%																																																																																																																																																										
	受験者数 248	41	105	5	66	0	465																																																																																																																																																											
合計	合格者数 67	34	55	17	61	11	245	33.7%																																																																																																																																																										
	受験者数 251	58	178	70	132	39	728																																																																																																																																																											
合格率 26.7% 58.6% 30.9% 24.3% 46.2% 28.2%																																																																																																																																																																		
	1年		2年		3年																																																																																																																																																													
	普通科	英語科	普通科	英語科	普通科	英語科																																																																																																																																																												
準1級	0	0	0	0	0	1																																																																																																																																																												
取得率						2.9%																																																																																																																																																												
2級	0	7	14	21	21	21																																																																																																																																																												
取得率		17.5%	5.9%	55.3%	8.8%	60.0%																																																																																																																																																												
準2級	68	36	93	35	91	31																																																																																																																																																												
取得率	28.6%	90.0%	39.4%	92.1%	37.9%	88.6%																																																																																																																																																												
生徒数	238	40	236	38	240	35																																																																																																																																																												
② 英語運用力の向上2 ・英語ディベート全国大会出場 ・各種コンテスト入賞	・授業との関連を持たせ、英語スピーチ、ディベートの技術力を向上させる。 ・各種スピーチ、ディベートコンテストの情報提供を行うとともに、適切な時期に指導を行う。	・高知県英語ディベート大会優勝(2年生チーム) ・全国高校生英語ディベート大会出場(2年生チーム) ・高知県中学・高校英語弁論大会 優勝(1年生) 第5位(2年生) ・全国高等学校英語スピーチコンテスト四国ブロック代表選考会第3位入賞(1年生)	B	・コンテストで成果が得られるよう準備を進める必要がある。																																																																																																																																																														
③ 国際交流体験における主体的な情報発信	・「こくさい交流ジャーナル」、「英語科通信」をタイムリーに発行する。 ・オーストラリア・イギリス語学研修旅行の報告会を帰国後3ヶ月以内に実施する。	・「こくさい交流ジャーナル」10月号・2月号発行 ・「英語科通信」Vol.1～Vol.5発行	A																																																																																																																																																															
5	学習環境整備	① 学習環境の整備・充実が常に図られている	・日常点検による修繕必要箇所の早期発見と対応を行う。 ・生徒部と連携し、校内美化に取り組む。	・草刈、剪定、水やりなど、植物の管理に努めた。	学校評価アンケートより「学習や部活動のための環境が整備されている」保護者 81.8% (平成24年度 70.5%)	A																																																																																																																																																												
		② 安心・安全な教育環境が整っている	・事務室全員による定期巡回を行う。 ・迅速な予算獲得と工事発注、適切な監理を行う。	・校内を回るとは、できるだけ異常個所の発見に努めた。	・標識、掲示板、誘導など、交通安全施設は充実してきた。	A A	A																																																																																																																																																											
		③ 防災用品の研究と購入、管理が図られている	・必要物品のリストを作成し購入する。 ・備蓄場所の調整と備品管理の仕組みづくりを確立する。	・8月から納入される備蓄品の保管場所を確保した。	今後も防災に関する備蓄品が支給されるので、避難所運営をイメージしながら、適切な配置を行いたい。	A																																																																																																																																																												
6	関係機関との連携・協力	① 情報発信の拡充	・PTA広報部を活性化し、「西高だより」を更に充実させる。 ・高知大学と連携して学校案内を作成する。	・26年度学校案内は、高知大学教育学部芸術文化コースと協働により制作できた。	・学校HPのトピックス欄が昨年以上に充実した。 学校評価アンケートより「発信情報は充実している」教職員 94.9% 保護者 81.0% ・「西高だより」をどの程度読んでいるか 毎回 46.7% 時々 38.1% 不読 9.8% 不知 5.4%	A	・発信情報の内容が地域や中学校にとって果たして適切なものになっているかどうかを評価する必要もある。 ・保護者のPTA活動への参加はどのようなものとなっているのか。																																																																																																																																																											
		② PTA総会への保護者参加率の向上	・学校HPへ日常の活動を掲載する。	・参加率は54%であり、昨年より微増(7%)している。	卒業式に400名を超える保護者が出席した。	A																																																																																																																																																												
		③ 中学校の生徒・教員及び地域住民が西高のよさを知っている	・学校行事の案内を、地域や中学校に向けて積極的に行う。	・高校入試前期試験志願率 149% (平成24年度134%) ・近隣量販店から卒業生にメッセージ入りチョコレートが贈呈される。	B																																																																																																																																																													